

知財・法務の実務に活かす「NEC cotomi」導入・評価ガイド

cotomiの進化と知財実務への示唆



知財ワークフロー別・適用適性マップ



知財実務における強みと課題のトレードオフ

強み: 日本語・機密性・図表の「三位一体」
日本語特化の親度、オンプレミス環境による営業秘密保護、特許図面を含む文書理解が最大の特徴。

課題: 公開情報の「透明性ギャップ」
学習データソース、パラメータ散、出力権利の幅属などが一般公開ベースでは不明確。個別契約確認が必須。

成功のための「二層構成」実装戦略

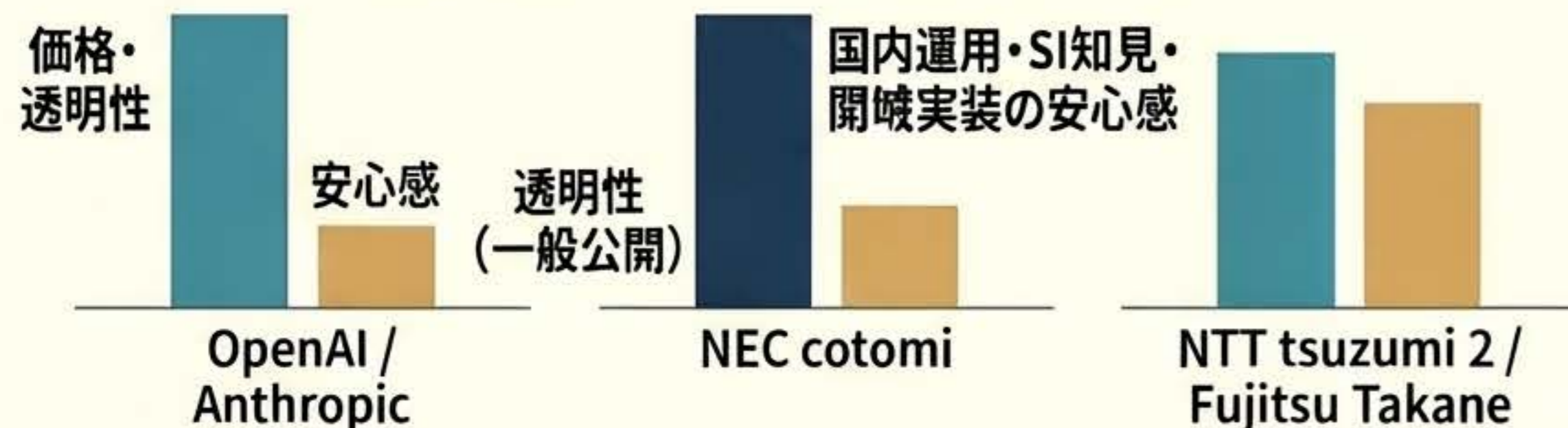
第一層: 閉域 cotomi 環境
未公開の発明、契約ドラフト、営業秘密を扱うためのセキュリティ重箱の基盤。

第二層: 公開情報探索層
公開特許や論文など、広域な探索や高度な括論を構うための外部接続（必要に応じて）。

パイロット運用の成功指標 (KPI)

- 検索再現率 (Recall@20) 80%以上、
- 出典付き回答率95%以上、一次議解時間の30%削減を目標に設定。

競合比較: グローバルモデル vs cotomi



OpenAI/Anthropicは価格・透明性で優位だが、cotomiは国内運用・SI知見・閉域実装の安心感で勝る。

モデル比較のサマリー (知財実務目線)

評価項目	NEC cotomi	OpenAI / Anthropic	NTT tsuzumi 2 / Fujitsu Takane
日本語適性	非常に高い	高い (汎用的)	高い (特化型)
提供形態	オンプレ/閉域接続	SaaS/クラウド中心	オンプレ/Azure
透明性・権利	個別契約で確立必要	明文化されている	中程度
知財記評	国内機密業務に有力	高性能・汎用推論向き	軽量・特定領域向き